

○計画期間：平成27年7月～平成32年3月（4年9箇月）

## I. 中心市街地全体に係る評価

### 1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成27年6月以降、認定計画に基づき、「みんなでつくる活気と賑わいの場、暮らしよい元気な中心市街地」を基本テーマとして、①「安全・安心で快適に暮らせる生活中心のまちづくり」、②「生活文化の薫る歴史的な街並みを活かした観光・交流拠点のまちづくり」、③「都市型産業の育成やビジネス創出へとつながるまちづくり」の3つの基本方針をもとに各事業を実施してきた。

認定から1年を経過していない中ではあるが、地方創生の取組みとも一致したことにより、中心市街地のみならず、倉吉市全体、鳥取県中部地区において、様々な取組みが開始されている。

また、平成27年4月に山陰初の4年制単科看護大学である鳥取看護大学が開学したことに伴い、80名の新たな学生が入学したことにより、まちなかに若者による賑わいが創出されつつある。将来的には鳥取看護大学に320名程度の学生が在学することとなることから、学生をターゲットとした新たな事業を検討したいという事業者も現れてきている。今後も人口増が期待され、学生をターゲットとした新たな事業が実施されることに期待できると考えられる。

中心市街地では、20時以降の時間帯におけるバス運行が平成27年10月に開始され、平成27年11月には高齢者に対応した住宅が供用開始された。また、防災拠点の整備、博物館の耐震改修整備、観光駐車場の整備が行われ、イベントではアジア・トレイルズ・カンファレンスや名探偵コナンミステリーツアーが開催されるなど、中心市街地における環境が整えられ、「安全・安心で快適に暮らせる生活中心のまちづくり」「生活文化の薫る歴史的な街並みを活かした観光・交流拠点のまちづくり」の推進に繋がっている。一方、平成27年12月をもってタウンマネージャーが辞任したことに伴い、事業の停滞が懸念されたが、専門家の招聘（中心市街地商業活性化アドバイザー派遣事業）により、事業の実現性を高めてきており、「都市型産業の育成やビジネス創出へとつながるまちづくり」に繋がってきている。平成27年度においては「倉吉駅前ファーマーズマーケット」「小川記念館」「アーティストとの交流によるまちづくり拠点」の整備に向けたマーケティング調査やニーズ調査が行われ、賑わいを創出する施設整備に向けた準備が行われたが、事業計画をブラッシュアップしている状況であり、当初より実施時期の遅れが生じていることが課題となっている。

### 2. 平成27年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

倉吉市中心市街地活性化協議会においては、倉吉市をはじめ経済団体、事業者で構成する事務連絡会議を定例で開催し、基本計画掲載事業の進捗状況等について情報共有を図ると共に、推進における課題やその対応方策について検討を行い、中心市街地活性化

の総合調整を図った。また、各事業の推進については、必要に応じて専門家を招聘し、事業設計や調整、運営支援を行い、併せて新たな事業発掘を行い、協議へ参画するなどして、事業化に向けて事業主体のサポートを行った。

平成 27 年度の基本計画の状況については、活性化の目標として掲げている 3 指標について、中心市街地における観光入込客数を除いては、目標達成に向け、計画事業の遂行と、事業の周知・広報が必要であると考え、概ね計画掲載事業が中心市街地の活性化に対して効果的に実施されていると捉えられる。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

| 目標                          | 目標指標            | 基準値                     | 目標値                     | 最新値                  | 前回の<br>見通し | 今回の<br>見通し |
|-----------------------------|-----------------|-------------------------|-------------------------|----------------------|------------|------------|
| 誰もが持続的に住みたく暮らしやすい生活環境を備えたまち | 中心市街地全体の人口の社会増減 | △121人<br>(H21-26年の累計)   | ±0人<br>(H27-32年の累計)     | △4人<br>(H27-H28年の累計) | —          | ③          |
| 歴史的・文化的資源を活かした回遊型観光のまち      | 中心市街地における観光入込客数 | 375,500人<br>(H25年)      | 421,400人<br>(H31年)      | 396,386人<br>(H27年)   | —          | ①          |
| 小規模でも高付加価値な事業活動を創出するまち      | 中心市街地における創業事業所数 | 平均5件/年<br>(H21-25年度の平均) | 平均8件/年<br>(H27-31年度の平均) | 7件<br>(H27年度の平均)     | —          | ③          |

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### ■基本計画目標指標の状況

##### 【中心市街地全体の人口の社会増減】

平成21年から26年までの中心市街地全体の人口の社会増減の累計は△121人であったが、平成27年2月から平成28年1月までの期間において△4人となった。

住宅リフォーム助成事業、若者子育て世帯買い物応援事業、住民運営のサロン事業、打吹公園整備事業、倉吉駅前ファーマーズマーケット整備事業、地域子育て支援拠点事業（利用者支援事業）、サービス付高齢者向け賃貸住宅事業などの推進により、中心市街地における住みやすい環境が整えられつつあり、この度は、特にサービス付高齢者向け賃貸住宅事業による人口増とともに、鳥取看護大学（4年生大学）の設置による学生の増加による人口増が社会増減に大きく寄与したと考えられる。

リノベーション居住推進事業の取組みの進捗状況は、中心市街地への移住がなく予定どおりではないものの、リノベーション居住推進事業の周知・広報に努め、中心市街地への移住を促すよう積極的に案内をしていくこととしており、また、中心市街地において移住がなかった1つの要因と考えられる空き家バンクの登録件数の不足を、新たに利用可能な空き家、空き店舗の有効的な活用の調査、移住者等とのコーディネーターの設置を行う「空き家活用推進事業」を実施していくことで対応を予定している。

またサービス付高齢者向け賃貸住宅がまだ入居可能であることや、鳥取看護大学につ

いては開学が平成 27 年 4 月であり今後も学生が増えることから、人口増が期待でき、目標値±0人の目標達成も可能と見込まれる。

#### 【中心市街地における観光入込客数】

平成 27 年における中心市街地における観光入込客数は 396,386 人であり、現在、小川記念館が整備されていない状況の中、基準値からプラス 20,800 人程度の観光入込客数の増加があった。赤瓦 1 号館で 7,260 人、倉吉博物館で 3,578 人、倉吉淀屋で 4,889 人、鳥取二十世紀梨記念館で 25,272 人のプラスがあった一方、倉吉ふるさと物産館が 20,160 のマイナスであった。倉吉博物館では、後期において耐震改修を行っており、後半期において入込がなかったにも関わらず、前期において誘客を促す展示イベントを開催したことにより、プラスの成果を得ている。

小川記念館整備事業の店舗部分は当初計画から遅れているものの、小川記念館整備事業の文化財部分の整備、倉吉淀屋活用事業、県指定文化財維持管理事業、歴史的景観整備事業、観光駐車場整備事業、名探偵コナンミステリーツアー、アジア・トレイルズ・カンファレンスなどの観光に資する取組みの進捗状況が順調であるとともに、小川記念館整備事業により記念館を整備することで、年間 48,000 人程度の観光入込客数を増加させる見込みがたつことから、平成 31 年における目標値 421,400 人の目標達成も可能であると見込まれる。

#### 【中心市街地における創業事業所数】

平成 21 年度から 25 年度までの中心市街地における創業事業所数の平均は 5 件/年であったが、平成 27 年度における創業事業所数は 7 件であった。

地域の暮らしを支える商店街づくり事業、地域産業活性化推進事業、倉吉市制度融資事業の事業の推進により、中心市街地における創業への環境が整えられつつある一方で、リノベーション居住推進事業、倉吉市中心市街地活性化協議会タウンマネージャー設置事業の進捗状況は予定どおりではなかった。

今後、リノベーション居住推進事業の周知・広報に努め、中心市街地での創業を促すよう積極的に案内するとともに、リノベーション居住推進事業を側面から補強する事業として、中心市街地において創業がなかった 1 つの要因と考えられる空き家バンクの登録件数の不足を、新たに利用可能な空き家、空き店舗の有効的な活用の調査や移住者等とのコーディネーターの設置を行う「空き家活用推進事業」を実施していくことで対応を予定している。

また、タウンマネージャー設置事業については、新たなタウンマネージャーを募集しながら、事業のブラッシュアップ等は中小企業基盤整備機構のアドバイザーなどの専門人材を活用し、事業を推進することで創業につなげていくこととしており、鳥取看護大学の学生をターゲットとした創業が今後期待できることから、創業数の増が見込まれ、目標値平均 8 件/年の目標達成も可能と見込まれる。

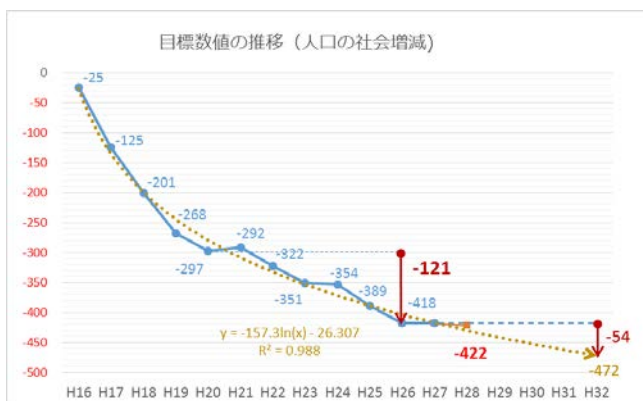
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地全体の人口の社会増減」※目標設定の考え方基本計画 P46 参照

##### ●調査結果の推移



| 年      | (人)                 |
|--------|---------------------|
| H21-26 | 基準値<br>△121人 (累計)   |
| H27    | △4人 (H27 - H28 の累計) |
| H28    |                     |
| H29    |                     |
| H30    |                     |
| H31    |                     |
| H27-32 | 目標値<br>±0人 (累計)     |

※調査方法：住民基本台帳を基に中心市街地の転入・転出を集計

※調査月：平成27年2月～平成28年1月

※調査主体：倉吉市

※調査対象：中心市街地内の転入・転出

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①リノベーション居住推進事業

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 平成26年度～【実施中】ソフト事業  |
| 事業概要       | 古民家や空き家等をリノベーションによって事務所、店舗、住宅等として再生するため、移住相談窓口の設置、移住初期経費等の一部補助、家賃補助等を行う。   |
| 事業効果及び進捗状況 | 相談窓口を設置し、年間310件の移住相談対応を行った。<br>県外からの移住支援として、7件の補助支援を行った（移住初期経費補助：5件、家賃補助：2件）が、本事業を活用しての中心市街地区域内への移住は適わなかった。<br>中心市街地区域では、空き家バンクに登録された物件のうち3物件が活用されることとなったが、中心市街地に移住がなかった1つの要因として、空き家バンクの登録件数の不足が考えられることから、空き家活用推進事業を実施していく予定である。 |

###### ②住宅リフォーム助成事業

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 平成27年度【済】ソフト事業   |
| 事業概要       | 住宅のリフォームに対する助成を行う。   |
| 事業効果及び進捗状況 | 中心市街地活性化区域内において、9件の助成を行い、区域外からの転居もあった。住宅リフォームによる住環境の向上により住人の生活が充実したほか、子・孫世代のI・J・Uターンによる定住につながった。 |

### ③若者子育て世帯買い物応援事業

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 平成 19 年度～【実施中】ソフト事業   |
| 事業概要       | 子育て応援カード（商業施設等が協賛店）により、割引・特典サービスを実施する。  |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成 28 年度から 5 カ年の事業継続することを決定し、協賛事業者の更新（85 件）及びカードの更新（1,774 件）を行った。地域の店舗が子育て応援に協賛し、生活サービスが充実した。 |

### ④住民運営のサロン事業

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 平成 19 年度～【実施中】ソフト事業   |
| 事業概要       | 自主交流、介護予防教室、健康教室、認知症検診等を展開する介護予防の拠点として高齢者が集う住民運営のサロンを整備。介護予防ボランティアの養成、立ち上げ支援、運営者育成、運営支援を行う高齢者生活支援コーディネーターの設置を行う。  |
| 事業効果及び進捗状況 | 区域内において、認知症予防教室から高齢者サロンに 3 教室を移行し、合計で 66 名参加者があった。<br>平成 27 年度においては平成 28 年度に高齢者生活支援コーディネーターの活動を支えていく「協議体」を設置するための検討を行った。今後、協議体の設置、高齢者生活支援コーディネーターの選定を行う予定。<br>元気な高齢者の社会活動の場をつくることで、生活サービスが充実した。 |

### ⑤打吹公園整備事業

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 平成 23～32 年度【実施中】ハード事業   |
| 事業概要       | 体育施設（庭球場、野球場など）の改修、体験学習施設の改修を行う。  |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成 27 年度は、倉吉博物館の屋根外壁改修工事、及び耐震補強工事を実施し、より安心安全で快適な体験学習施設となった。<br>また、市営陸上競技場横駐車場管渠の改修、老朽化した羽衣池太鼓橋の架替え、中央トイレ屋根の改修を実施し、来訪者の安全性と利便性の確保を図った。<br>市民が身近に利用している施設が整備され、定住化が促進される環境が整えられた。 |

### ⑥倉吉駅前ファーマーズマーケット整備事業

|        |  |
|--------|--|
| 事業完了時期 | 平成 27 年度【済】ソフト事業<br>平成 28 年度～【未】ハード事業              |
| 事業概要   | 老朽化に伴う建替えのため 1 F を農産物直売所として、また 2 F を多目的ホールとして整備する。 |
| 事業効果及び | 平成 27 年度においてはハード事業に向けた整備計画の策定や調査を                  |

|      |  |
|------|--|
| 進捗状況 | <p>行った。</p> <p>調査事業では、ファーマーズマーケット以外の商機能も求められる結果や事業箇所に対するマイナス評価があったことから、事業化における検討材料とすることとしている。</p> <p>ハード整備については、施設整備を行う場所の変更を検討していることより、当初の計画より遅れているが、平成29年度のハード整備を目指している。</p> |
|------|--|

#### ⑦地域子育て支援拠点事業（利用者支援事業）

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 平成27～31年度【検討実施中、整備未】ハード事業   |
| 事業概要       | 地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、情報収集と提供、必要に応じて相談・助言等を行う施設を設置、また、関係機関との連絡調整を実施し、子育て世帯が集まりやすい拠点整備を検討する。        |
| 事業効果及び進捗状況 | <p>新たな施設整備の検討に向け、引き続き情報の収集、提供及び相談体制を整えている。</p> <p>子育て世帯が住みたくなる環境を整えることで、居住人口の増加、定住化を図っていく必要がある。</p> |

#### ⑧サービス付高齢者向け賃貸住宅事業

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 平成27年度【済】ハード事業   |
| 事業概要       | サービス付高齢者向け賃貸住宅の整備を行う。  |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成27年11月に供用開始し、平成28年3月末時点で22名の入居があった。設備の整った利便性の高い高齢者向けの住宅を提供することにより、居住の増加し、定住化が図られた。 |

#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

平成21年から26年までの中心市街地全体の人口の社会増減の累計は△121人であったが、平成27年2月から平成28年1月までの期間において△4人となった。

住宅リフォーム助成事業、若者子育て世帯買い物応援事業、住民運営のサロン事業、打吹公園整備事業、倉吉駅前ファーマーズマーケット整備事業、地域子育て支援拠点事業（利用者支援事業）、サービス付高齢者向け賃貸住宅事業などの推進により、中心市街地における住みやすい環境が整えられつつあり、この度は、特にサービス付高齢者向け賃貸住宅事業による人口増とともに、鳥取看護大学（4年生大学）の設置による学生の増加による人口増が社会増減に大きく寄与したと考えられる。

リノベーション居住推進事業の取組みの進捗状況は、中心市街地への移住がなく予定どおりではないものの、リノベーション居住推進事業の周知・広報に努め、中心市街地への移住を促すよう積極的に案内をしていくこととしており、また、中心市街地において移住がなかった1つの要因と考えられる空き家バンクの登録件数の不足を、新たに利用可能な空き家、空き店舗の有効的な活用の調査、移住者等とのコーディネーターの設置を行う「空き家活用推進事業」を実施していくことで対応を予定している。

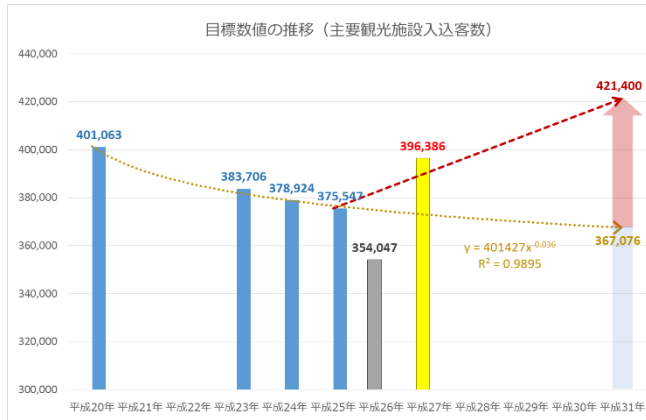
またサービス付高齢者向け賃貸住宅がまだ入居可能であることや、鳥取看護大学については開学が平成 27 年 4 月であり今後も学生が増えることから、人口増が期待でき、目標値±0人の目標達成も可能と見込まれる。



#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地における観光入込客数」※目標設定の考え方基本計画 P50 参照

##### ●調査結果の推移



| 年   | (人)              |
|-----|------------------|
| H25 | 基準値<br>375,500 人 |
| H26 | —                |
| H27 | 396,386 人        |
| H28 |                  |
| H29 |                  |
| H30 |                  |
| H31 | 目標値<br>421,400 人 |

※調査方法：中心市街地内の6施設の観光入込客を集計

※調査月：平成27年1月～平成27年12月

※調査主体：倉吉市

※調査対象：中心市街地内の6施設の観光入込客数

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①小川記念館整備事業

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 平成27年度【済】ソフト事業<br>平成28年度～【未】ハード事業   |
| 事業概要       | 小川家の主屋、酒蔵、庭園が県文化財指定を受けることを契機に、展示機能を有した改修、庭園の復原整備を行い、新たな集客施設として整備する。主屋の県の文化財指定を機に、蔵の一部を改修し、土産物販売、喫茶・軽食販売が行える店舗として整備する。   |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成27年度においてはハード事業に向けた整備計画の策定や調査を行った。<br>調査事業では、飲食機能がメインで求められる結果があったことから、事業化における検討材料とすることとしている。<br>ハード整備については、28年度から庭園等の整備に取り掛かる一方、店舗についてはテナント事業者を募集・調整しているため、当初の計画より遅れており、平成29年度のハード整備を目指している。 |

###### ②倉吉淀屋活用事業

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 平成27年度【済】ソフト事業<br>平成28年度～平成30年度【未】ハード事業 |
| 事業概要       | 倉吉淀屋付属屋の修理・復原、修繕、トイレなどの施設整備を行う。         |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成27年度においてはハード事業に向けた整備計画の策定を行った。        |

|  |   |
|--|---|
|  | 平成 28 年度からハード整備を予定しており、平成 30 年の完成を目指している。<br>魅力ある観光拠点、面的な波及効果に繋がる事業であることから、引き続き事業化を図っていく。 |
|--|---|

### ③県指定文化財維持管理事業

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 平成 23 年度～【実施中】   |
| 事業概要       | 県指定保護文化財建造物及び県指定名勝（庭）をもつ桑田家及び高田家の維持保全、メンテナンスを行う。   |
| 事業効果及び進捗状況 | 継続して県指定保護文化財及び名勝の桑田家及び高田家の維持保全を行い、高田家住宅においては、建造物文化財的価値を取りまとめた報告書を作成した。<br>魅力ある観光拠点、面的な波及効果に繋がる事業であることから、引き続き事業を行う。 |

### ④歴史的景観整備事業

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 平成 23 年～平成 32 年度【実施中】  |
| 事業概要       | 既存の伝統的建造物群保存地区の修理・修景事業の維持・更新を図るとともに、新たな伝建地区の指定やそれに伴う修理・修景事業の実施、街なみ環境整備を実施する。   |
| 事業効果及び進捗状況 | 街並み環境整備として、8 件の家屋の外観整備を実施した。<br>また文化財として、修理物件 6 件、修景物件 1 件の保存修理を行い、うち 3 軒の修理は新たな店舗として活用されており、2 軒は定住に寄与している。<br>歴史的街並みの魅力が維持・向上され、交流人口の増加へ寄与が期待される。 |

### ⑤観光駐車場整備事業

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 平成 27 年度【済】ハード事業   |
| 事業概要       | シビックセンターたからや跡地を観光駐車場として整備を行う。                              |
| 事業効果及び進捗状況 | 観光駐車場としてバス 7 台、一般車両 63 台を整備。<br>観光環境の向上により、交流人口の増が今後期待される。 |

### ⑥名探偵コナンミステリーツアー

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 平成 27 年度【済】ソフト事業   |
| 事業概要       | 倉吉駅ー赤瓦・白壁土蔵群とその他周辺町の観光スポットを結び、各地でミステリーを解く名探偵コナンのツアーを開催する。                            |
| 事業効果及び進捗状況 | 参加総数 1,641 名があり、周遊観光が活性化され、地域の PR 促進や交流人口の増加に寄与した。<br>また新たにインバウンド版の名探偵コナンミステリーツアーを実施 |

|  |     |
|--|-----|
|  | 予定。 |
|--|-----|

#### ⑦アジア・トレイルズ・カンファレンス

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 平成 27 年度【済】ソフト事業   |
| 事業概要       | ウォーキングやトレイル関係者が集まる世界大会「ワールド・トレイルズ・カンファレンス (WTC)」のアジア大会を開催する。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 参加総数 396 名があり、地域の PR 促進や交流人口の増加に寄与した。                        |

#### ⑧ワールド・トレイルズ・カンファレンス

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 平成 28 年度【未】ソフト事業  |
| 事業概要       | ウォーキングやトレイル関係者が集まる世界大会「ワールド・トレイルズ・カンファレンス (WTC)」を開催する。            |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成 28 年度実施予定。アジア・トレイルズ・カンファレンスと同様に地域の PR 促進や交流人口の増加に寄与することが期待される。 |

#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

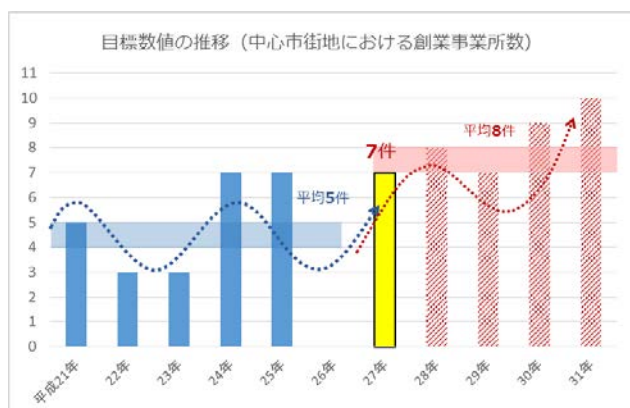
平成 27 年における中心市街地における観光入込客数は 396,386 人であり、現在、小川記念館が整備されていない状況の中、基準値からプラス 20,800 人程度の観光入込客数の増加があった。赤瓦 1 号館で 7,260 人、倉吉博物館で 3,578 人、倉吉淀屋で 4,889 人、鳥取二十世紀梨記念館で 25,272 人のプラスがあった一方、倉吉ふるさと物産館が 20,160 のマイナスであった。倉吉博物館では、後期において耐震改修を行っており、後半期において入込がなかったにも関わらず、前期において誘客を促す展示イベントを開催したことにより、プラスの成果を得ている。

小川記念館整備事業の店舗部分は当初計画から遅れているものの、小川記念館整備事業の文化財部分の整備、倉吉淀屋活用事業、県指定文化財維持管理事業、歴史的景観整備事業、観光駐車場整備事業、名探偵コナンミステリーツアー、アジア・トレイルズ・カンファレンスなどの観光に資する取組みの進捗状況が順調であるとともに、小川記念館整備事業により記念館を整備することで、年間 48,000 人程度の観光入込客数を増加させる見込みがたつことから、平成 31 年における目標値 421,400 人の目標達成も可能であると見込まれる。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地における創業事業所数」※目標設定の考え方基本計画 P54 参照

##### ●調査結果の推移



※調査方法：倉吉商工会議所が把握している中心市街地内の創業事業所を集計

※調査月：平成27年4月～平成28年3月

※調査主体：倉吉商工会議所

※調査対象：中心市街地内の創業事業所

| 年        | 件             |
|----------|---------------|
| H21-25年度 | 基準値<br>平均5件/年 |
| H26年度    | —             |
| H27年度    | 7件            |
| H28年度    |               |
| H29年度    |               |
| H30年度    |               |
| H31年度    |               |
| H27-31年度 | 目標値<br>平均8件/年 |

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①リノベーション居住推進事業

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 平成26年度～【実施中】ソフト事業   |
| 事業概要       | 古民家や空き家等をリノベーションによって事務所、店舗、住宅等として再生するため、移住相談窓口の設置、移住初期経費等の一部補助、家賃補助等を行う。  |
| 事業効果及び進捗状況 | 相談窓口を設置し、年間310件の移住相談対応を行った。<br>県外からの移住支援として、7件の補助支援を行った（移住初期経費補助：5件、家賃補助：2件）が、本事業を活用しての中心市街地域内への移住・創業は適わなかった。<br>中心市街地域では、空き家バンクに登録された物件のうち3物件が活用されることとなったが、中心市街地に移住がなかった1つの要因として、空き家バンクの登録件数の不足が考えられることから、空き家活用推進事業を実施していく予定である。 |

###### ②地域の暮らしを支える商店街づくり事業

|        |   |
|--------|---|
| 事業完了時期 | 平成15年度～【実施中】ソフト事業   |
| 事業概要   | 空き店舗等を活用した日常生活を支える店舗（食品や日用品等の店舗、食堂等）の設置や、地域コミュニティスペースの設置・運営を行 |

|            |   |
|------------|---|
|            | う不動産所有者や民間事業者、地域団体等の取り組みを支援する。<br>(既存事業の「にぎわいのある商店街づくり事業費補助金」「チャレンジショップ運営事業」)                         |
| 事業効果及び進捗状況 | にぎわいのある商店街づくりにおいて家賃補助として8件、店舗改装として5件の支援を行い、チャレンジショップ運営事業では3件の利用があった。<br>商店街の空き店舗等を活用し、新規の出店を図ることができた。 |

### ③地域産業活性化推進事業

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 平成27年度～【実施中】ソフト事業   |
| 事業概要       | 地域産業活性化推進員の配置による就業情報提供、空き店舗のマッチング支援、市内事業者の販路開拓を支援する。  |
| 事業効果及び進捗状況 | H27年度空き店舗マッチング相談受付件数(貸借希望)15件。H27年度中市内新規開業数10件。販路開拓補助6件。<br>支援を行うことにより、事業者の創業、商店街の活性化に繋がった。 |

### ④倉吉市制度融資事業

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 昭和38年度～【実施中】ソフト事業   |
| 事業概要       | 中小企業者に貸付を行う金融機関に対し、その資金の一部を預託することで、長期低利の制度融資を実施する。                |
| 事業効果及び進捗状況 | H27年度の制度融資として、実行件数145件、融資実行額1,760,802千円を融資することにより、地域の商工業の振興に繋がった。 |

### ⑤倉吉市中心市街地活性化協議会タウンマネージャー設置事業

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 平成26年度～平成31年度【実施中】ソフト事業  |
| 事業概要       | 倉吉市中心市街地活性化協議会にタウンマネージャーを設置する。   |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成27年度途中でタウンマネージャーが辞任し不在の状況である。<br><br>新たな事業の創出、創業者の育成には、総合的な支援を行うタウンマネージャーが必要であることから、新たなタウンマネージャーを募集する予定。<br>事業のブラッシュアップ等は中小企業基盤整備機構のアドバイザーなどの専門人材を活用し、事業の推進を行っている。 |

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

平成21年度から25年度までの中心市街地における創業事業所数の平均は5件/年であったが、平成27年度における創業事業所数は7件であった。

地域の暮らしを支える商店街づくり事業、地域産業活性化推進事業、倉吉市制度融資事業の推進により、中心市街地における創業への環境が整えられつつある一方で、リノベーション居住推進事業、倉吉市中心市街地活性化協議会タウンマネージャー設置事業の進捗

状況は予定どおりではなかった。

今後、リノベーション居住推進事業の周知・広報に努め、中心市街地での創業を促すよう積極的に案内するとともに、リノベーション居住推進事業を側面から補強する事業として、中心市街地において創業がなかった1つの要因と考えられる空き家バンクの登録件数の不足を、新たに利用可能な空き家、空き店舗の有効的な活用の調査や移住者等とのコーディネーターの設置を行う「空き家活用推進事業」を実施していくことで対応を予定している。

また、タウンマネージャー設置事業については、新たなタウンマネージャーを募集しながら、事業のブラッシュアップ等は中小企業基盤整備機構のアドバイザーなどの専門人材を活用し、事業を推進することで創業につなげていくこととしており、鳥取看護大学の学生をターゲットとした創業が今後期待できることから、創業数の増が見込まれ、目標値平均8件/年の目標達成も可能と見込まれる。